

2023年6月12日

各位

株式会社高館組
代表取締役社長 高館 徹

当社における DX 戦略について

1. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性

当社では生産性を向上させ、働き方改革法に則った体制を整え、なおかつ競争力を維持するために DX 推進に挑戦していきます。そのあるべき姿として、デジタル化や気候変動といった社会変化への対応と組織の持続的成長の両立を掲げ、組織改革を進めていきます。

具体的には、デジタル技術を活用した DX 戦略を推進するために、新設した DX 推進プロジェクトチームを筆頭に、デジタル技術を各部署に確実に導入することにより、社内システム、オペレーションをデジタルで再構築し、顧客や社会に付加価値を提供するための新たな仕組みを確立します。以下、具体的な取組みの一例です。

- ① 電話、移動、手戻り（コミュニケーションミス）をデジタル化、クラウドを使った仕事のやり方を取り入れて徹底的に減少させます。
- ② 工事現場進行に必要とされる書類・写真等の作成、管理を Microsoft Teams や Share Point などのクラウド上で行い、現場の負担を会社全体として共有することにより働き方改革を実現し、新たな競争力をつけます。
- ③ DX を協力業者等に広げてスムーズな事務業務の効率化を図っていきます。
- ④ 現場担当者に集中しがちであった業務（タスク）を社内の人員にアウトソーシング可能な新しい建設の仕事の仕方に移行します。

2. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な戦略

DX 方針

「デジタル技術の普段使いでノンコア業務の効率化を図り、コア業務に集中する環境を生み出す事で、社員のワークライフバランスの実現とともに顧客満足度も高める」

① 業務オペレーションを変革

負担が大きいルーティンワークや、膨大な量のルールが定まった業務の工数削減のために、IoT・RPA・AI などのデジタル技術を活用し、業務効率や生産性アップ、アウトプットの質の向上を目指します。

② 企業文化・人を変革

IT 知識やハードウェア・アプリケーションの使い方など、社員が変化に適應できる様サポート・教育支援を行い、デジタルリテラシーを高め、DX を企業文化とできるように変革します。

3. 戦略を効果的に進めるための体制

DX 推進プロジェクトチームを設置し、統括常務取締役を統括責任者、DX 推進プロジェクトリーダー/サブリーダーを実務責任者とします。DX 推進プロジェクトチームは全社横断的な部門とし、デジタル技術を活用し全部門の業務上の生産性向上と、デジタル人材教育を確実に推進します。

4. 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策

- ① 業務改善の為、RPA・AI・BI ツール等の活用をすすめます。
- ② 業務で使う資料の 80%をクラウド化します。
- ③ クラウド化した資料に基づき現場担当者以外がサポートできるように、仕事の「見える化」を進めます。
- ④ IT リテラシー、クラウド、DX 推進に関わる機器の学習を DX 推進プロジェクトチームメンバーが中心となって受けます。会社は IT、クラウド教育に投資します。
- ⑤ 必要に応じて、機微情報へのアクセス権限を付与し、必要となる機器の選定の権限を部門ごとに与え、社内協議をもって導入を行います。

5. 戦略の達成状況に係る指標の決定

DX 推進による業務改善の指標として下記 KPI を設定し、継続的な改善をすすめます。
・ デジタライゼーションによる業務改善時間 (h/年間)

6. ステークホルダーへの情報発信

DX 戦略について、当社ホームページにて情報を発信いたします。

「当社における DX 戦略について」

<https://www.takadategumi.co.jp/wp2021/wp-content/uploads/2023/06/DXstrategy.pdf>

当社 Web サイト内トップページの新着情報に DX 方針の最新情報を掲載

<https://www.takadategumi.co.jp/>

以上